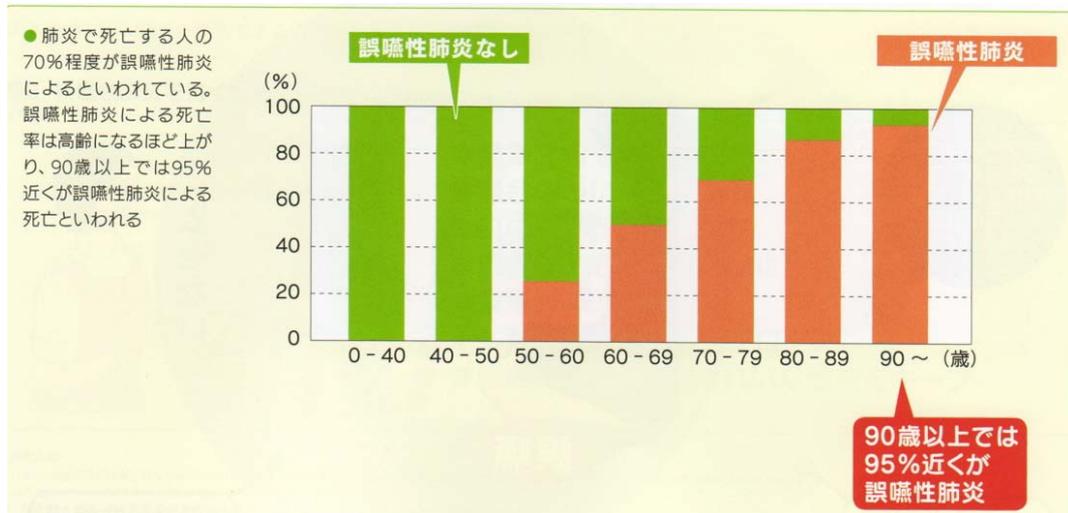


## 歯科医師会からのメッセージ

### 誤嚥性肺炎

皆さんは『誤嚥性肺炎』という言葉をご存じでしょうか？「肺炎なら知ってるけど」という人は多いと思います。人間は口、のどを通して酸素の入れ替えと、食べ物を噛み砕き飲み込むことをしています。食べ物は食道から胃に送られ、空気（酸素）は気道から気管支、肺へと送られます。この時食べ物などが誤って飲み込まれて気管から肺に入ってしまう肺で炎症を起こすのが『誤嚥性肺炎』です。



上図でもわかりますように年齢が上がるとともに発症率が高くなります。ただし、誤嚥したからと言って必ずしも肺炎になるわけではありません。健康な方であれば誤嚥するとムせて誤嚥したものを吐き出しますので肺炎にはなりません。

ではどういう時に誤嚥性肺炎が生じるのでしょうか。気管から肺へ飲み込んだ物の量とその中に含まれているバイ菌の数が多く、誤嚥した人の体力、免疫力、吐き出す力が低下している時に起こります。そのためお口の中を清潔に保つ必要があります。

認知症や脳梗塞後遺症の方は本人のブラッシングだけでは不十分ですので、歯科医や歯科衛生士に指導を受けた（家族を含めた）介護の方による口腔ケアがとても重要となります。また高齢者では肺炎の特徴的な症状の「咳」「たん」「発熱」のうち「咳」や「たん」の症状が見られないことがあります。そのため原因不明の発熱が続くときは早めにかかりつけの内科、耳鼻咽喉科などを受診することをお勧めします。